

上余白 20 mm

MS ゴシック 12 pt (行の中心)

左余白 20 mm

# (0000) 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会の原稿執筆要領

1行あける

受付番号 半角数字(4桁)

〇地盤三郎<sup>1</sup>・水環境次郎<sup>2</sup>・廃棄物花子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>土壌環境センター・<sup>2</sup>〇〇大学理学部

1行あける

MS 明朝 10 pt (行の中心)

口頭発表者を先頭に記載し、○をつける  
執筆者 6名以内

## 1. はじめに

MS ゴシック 10 pt

原稿は詳細データや結果、結論などを紹介し、データベースとして関係者に活用していただくために作成するものです。

原稿は PDF 形式で CD 化されます。A4 用紙 2~6 ページにまとめてください。ワードプロセッサを使用し、A4 判 (白色、縦向き) で作成して下さい。なお、電子ファイルの容量は 1.5MB 以内とします。

## 2. 原稿枚数

2~6 ページ (厳守) とします。

原稿の文字は黒色としますが、図・表・写真等については色の制限はありません。

## 3. 発表演題のレイアウトとフォント

### 3.1 題目

全角で第 1 行から書き始めてください。複数行になっても構いません。文字は MS ゴシック体、12 ポイントとします。

49 文字(全角) 10pt

題目には送付された発表申込受理のはがきに記載されている受理番号 (4 桁半角数字) をつけ、題目の中心が行の中心にくるように調整してください。

なお、受理番号は事務手続き上の仮番号であり発表番号ではありません。プログラム決定後、事務局にて発表番号に変更いたします。

### 3.2 執筆者氏名と所属

題目を書いた次の 1 行は空白とし、その次の行に氏名を、さらにその次の行に所属を記載し、所属が複数機関になる場合は、氏名の右肩に所属の左肩に上付き文字の数字で記すことにより分類してください。また、口頭発表者の氏名は先頭に位置づけ前に○印をつけてください。(英文も同様)

## 4. 原稿本文

### 4.1 本文

執筆者氏名と所属を書いた次の 1 行は空白とし、その次の行から書き始めてください。なお、日本語は MS 明朝体、英数字は Times New Roman 体、10 ポイント、1 ページの文字数・行数は 49 字 (全角) × 50 行を標準とし、上下左右余白を 20mm としてください。

句読点は、「、」と「。」を用いてください。

文体は口語常態 (である体)、現代かなづかいを用いてください。漢字は原則として、当用漢字を使用してください (固有名詞や広く用いられている慣用の語はこの限りではありません)。

文中の外国語はできるだけ避けてください (生物の学名、適当な訳語がない述語、固有名詞などはこの限りではありません)。

段落番号は概要、原稿とも執筆例を参考にしてください

MS 明朝・Times New Roman 10pt

### 4.2 図表・写真

適切な位置に配置挿入してください。なお、図表及び写真はカラーでも構いません。PDF 形式の電子ファイルで鮮明になっていること必ずご確認ください。表中の数字は小数点の位置をそろえてください。

### 4.3 英文題目・氏名・所属ならびに連絡先の記載

1 ページ目下段に線を引いて、その下に題目と執筆者と所属を英文で記し、さらにその下に連絡先を記してください。(順序は日本語記載と同一としてください。)

日本語は MS 明朝体、英数字は Times New Roman 体、10 ポイントとします。

## Paper preparation guidelines for Symposium

Saburo Jiban<sup>1</sup>, Jiro Mizukankyo<sup>2</sup>, and Hanako Haikibutsu<sup>1</sup> (<sup>1</sup>GEPC, <sup>2</sup>〇〇University)

連絡先: 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-2 (社) 土壌環境センター

TEL 03-5215-5955 FAX 03-5215-5954 E-mail [info@gepc.or.jp](mailto:info@gepc.or.jp)

右余白 20 mm

下余白 20 mm

MS 明朝・Times New Roman 10pt

#### 4.4 単位系

単位系は原則として国際単位系 (SI) を用いる。

- ① 数値と単位記号の間はスペース (半角 1 文字) をとる。例: 36 mg/L
- ② %や°Cなどの全角文字に対してはスペースをとらない。
- ③ リットルは SI 単位ではないが、単位記号 L を用いること。
- ④ 単位記号 ppm は原則としては用いない。mg/L などを用いる。例外: ガス濃度。
- ⑤ トンは cgs 単位であるが用いることも可とする。単位記号は t を用いる。ただし厳密に数値を扱う場合には  $10^3 \text{ kg}$  を用いる。
- ⑥ 時間の単位は秒であるが分、時間、日を用いることも可とする。単位記号はそれぞれ s、min、h、d を用いる。
- ⑦ 数学記号は 1 文字としイタリック体で表す。例:  $L=D/Pa$

#### 4.5 表・図

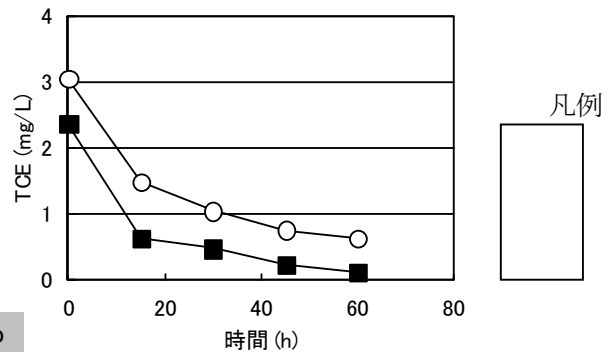
表・図は文章と対応するものを見やすいように作成し、文章の記載箇所の近傍に挿入してください。挿入方法は、ページの右半分、もしくは左半分を使用することが望ましいが、表・図の大きさに応じて適宜挿入してください。なお、図には凡例を忘れずに入れてください。

表-1 表の標題は表の上に置く

1行あける

物質	初期濃度 (mg/L)	土壌環境基準 (mg/L)
六価クロム	11.1	0.05 以下
鉛	0.72	0.01 以下
砒素	0.36	0.01 以下

表の下は 1 行あける



小数点の位置をそろえる

MS ゴシック 10 pt

1行あける

図-12 図の標題は図の下に置く  
(写真も下に表題を)  
図の下は 1 行あける

### 5. 参考文献等

#### 5.1 表示方法

参考文献は、出現順に番号を振り、その引用箇所でもり上付き右括弧付き数字で指示する。2 つ以上の文献を引用している場合は、1,5)ではなく、1),5)のように記載してください。

参考文献は、その全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしない。

#### 5.2 フォント

日本語は MS 明朝体、英数字は Times New Roman 体、10 ポイントとします。

#### 5.3 記載注意事項

著者名と著者名の間はカンマでつなぎ、著者数が多くとも参考文献リストには全ての著者名を記載してください。英文の雑誌の場合は、姓、イニシャルとします。発行年は西暦で表記してください。

発行年と論文名の間にはコロンを入れ、論文名、雑誌名、巻号、ページはカンマでつないでください。なお、雑誌の巻、号、ページの記載方法は学会などにより異なるので、慣れた標記方法で構いません。

#### 5.4 記載例

著者名(発行年): 論文名, 雑誌名, 巻号, ページ.

1) 地下水花子(2009): 報文・事例紹介の原稿作成例, 土壌環境センター技術ニュース, No.1, pp.23-45.

### 6. 最終頁

謝辞を記載する場合は簡潔に研究費の助成などを記載するにとどめてください。

以上